

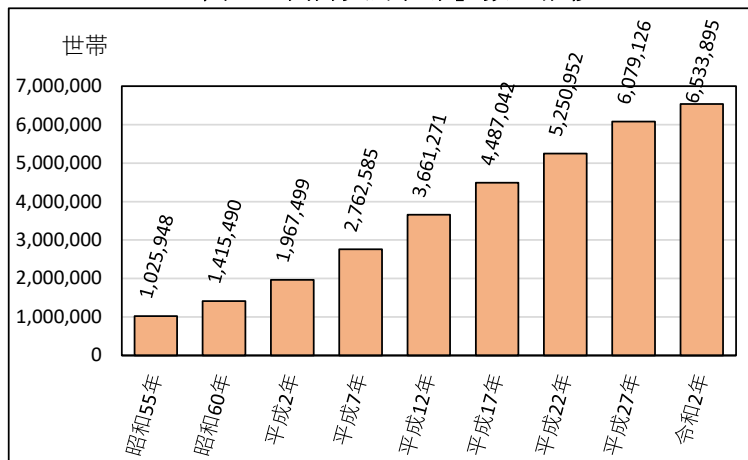
### 3.【高齢夫婦世帯比率】高いのは中山間地域のほか大都市近傍でも

昔は夫婦が複数の子を持ち、その子の誰かが結婚しても同居して家の跡を継ぐというパターンが多かったものが、戦後の高度成長期ごろからいわゆる「核家族化」が進み、子は独立世帯を持ち高齢となった夫婦が残されてこれもまた「核家族」になる、という流れが続きました。こうした流れが、少子化、高齢化と同時に進んでいることが日本社会の構造変化の大きな特徴でもあり、それが福祉の需要形態などにも大きな影響を及ぼしているといえます。

夫婦のみで「核家族化」した高齢者世帯を「高齢夫婦世帯」と呼ぶことにしましょう。国勢調査では、「夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯」の数を示しており、平成27年調査まではこれを「高齢夫婦世帯」と称していましたが、令和2年調査ではこの呼称を用いず、「夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯」と表示しています。ここでは簡便のため、これを「高齢夫婦世帯」として以下述べることにします。

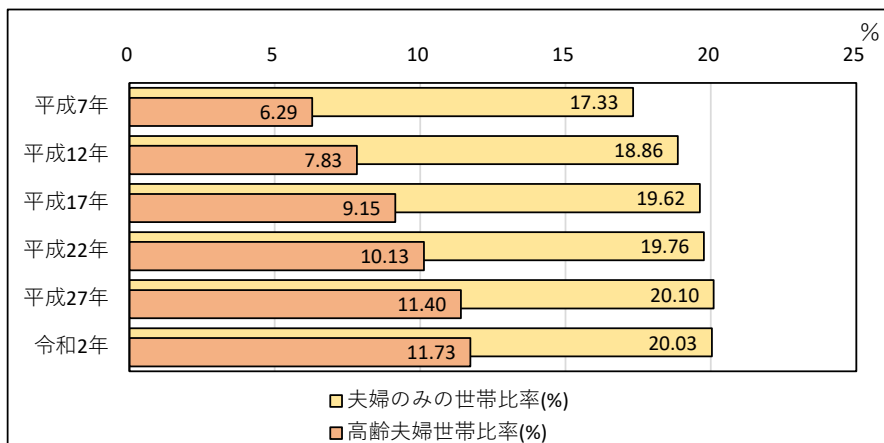
全国の「高齢夫婦世帯」の数は昭和55年から令和2年までの40年間で6倍以上に増加し、令和2年では約653万世帯となっています。全一般世帯（施設等の世帯を除く世帯）数に占める「夫婦のみの世帯」（年齢問わず）の割合が2割程度で頭打ちとなっている中で、「高齢夫婦世帯」の割合は増加を続け、全一般世帯数の1割を超えています。

全国の「高齢夫婦世帯」数の推移



資料：国勢調査

全国の「高齢夫婦世帯」の一般世帯数に占める割合の推移



資料：国勢調査

## ☞高齢夫婦世帯の割合が最も高いのは奈良県

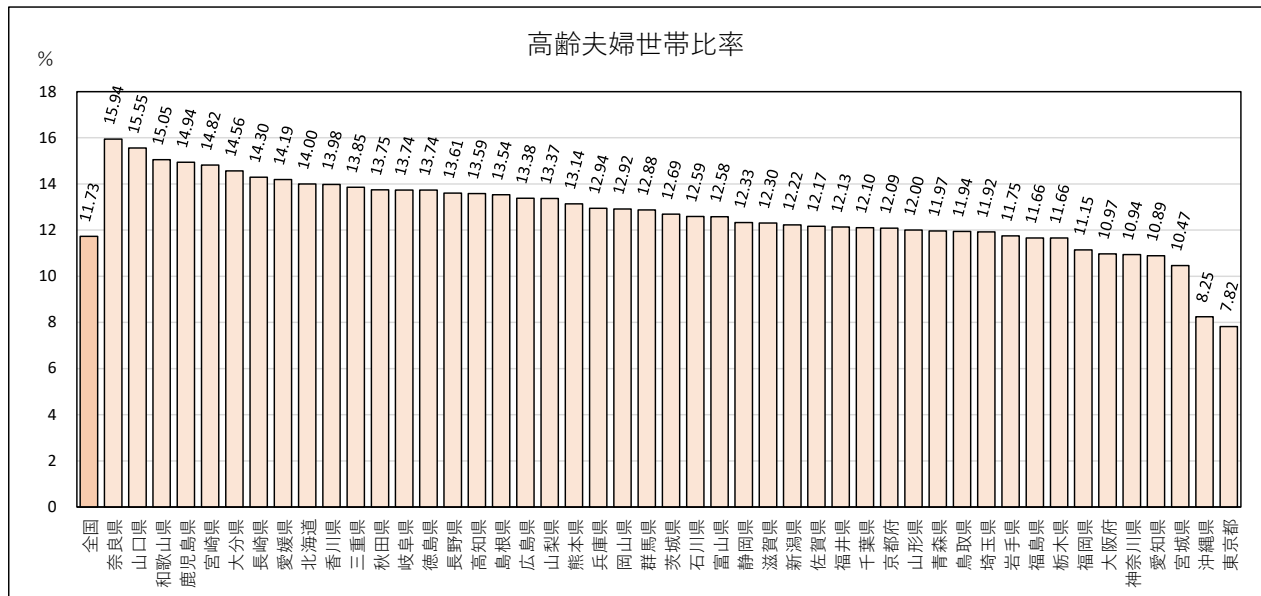
全国の「高齢夫婦世帯」比率は令和2年で11.73%ですが、これが地域によりどう異なるかを、まず都道府県別にみてみましょう。

高齢夫婦比率が最も高いのは、意外に思えるかもしれませんが奈良県で、15.94%と、全国値を4ポイント以上も上回っています。2位以下は、山口県、和歌山県、鹿児島県、宮崎県、大分県、長崎県と続き、西日本の県が多いことがわかります。全国平均よりも値が低いのは9都府県しかなく、これは、最も値が低い東京都が7.82%で、次点の沖縄県(8.25%)とともに総平均を押し下げていることに関係します。

高齢夫婦世帯の割合は、人口の高齢化率が高ければ高まることが容易に予想され、東京都、沖縄県は高齢化率が相対的に低いところなので、これは必然といえます。

最上位の奈良県は、南北に長い県域の中・南部の多くが中山間地域で、人口の高齢化率が高い町村が集中しているのと、北部は大阪等への通勤圏、ベッドタウンの性格も強く、早期に「核家族」として流入した夫婦が高齢になってまた「核家族」になるケースが多いという面もあるのではないのでしょうか。

都道府県別の高齢夫婦世帯比率



資料：令和2（2020）年国勢調査

## ☞中山間地域等のほか大都市近傍でも高齢夫婦世帯比率が高いところが

次に、市区町村別の「高齢夫婦世帯」比率を値が高い順で並べた上位及び下位の市区町村名をその値とともに以下に示します。ここでの「区」は東京特別区を指し、政令指定都市はひとつの「市」として扱います。令和2年の市区町村数は1,741（北方領土の6村を除く）ですが、福島県双葉郡の8町村は東日本大震災・原子力発電所事故の影響で特殊事情にあることから対象から除いており、比較対象は1,733市区町村となります。以下に、全市区町村での順位とともに、市及び東京特別区のみ絞った中での順位も併せて示します。

市区町村別の高齢夫婦世帯比率の上位・下位（令和2年国勢調査）

全市区町村での順位

「市」及び「区」（東京特別区）に絞った中での順位

順位	(県)	市町村名	高齢夫婦世帯比率(%)	
上位	1	大阪	豊能町	31.51
	2	群馬	神流町	28.33
	3	奈良	御杖村	27.29
	4	群馬	南牧村	26.85
	5	千葉	御宿町	26.31
	6	大阪	千早赤阪村	26.19
	7	奈良	東吉野村	26.05
	8	埼玉	鳩山町	25.93
	9	大分	姫島村	25.48
	10	愛知	豊根村	25.29
	11	京都	南山城村	25.22
	12	茨城	利根町	24.26
	13	徳島	牟岐町	24.24
	14	奈良	吉野町	23.76
	15	長野	天龍村	23.66
	16	青森	今別町	23.49
	17	奈良	平群町	23.48
	18	北海道	妹背牛町	23.37
	19	愛知	設楽町	23.35
	20	群馬	下仁田町	23.32
・				
・				
下位	1714	東京	杉並区	6.54
	1715	山梨	忍野村	6.52
	1716	沖縄	中城村	6.43
	1717	東京	目黒区	6.21
	1718	東京	小笠原村	6.04
	1719	埼玉	戸田市	5.94
	1720	東京	御蔵島村	5.88
	1721	沖縄	北大東村	5.83
	1722	沖縄	座間味村	5.80
	1723	東京	品川区	5.79
	1724	東京	文京区	5.69
	1725	東京	台東区	5.60
	1726	東京	千代田区	5.42
	1727	東京	中野区	5.36
	1728	東京	港区	5.24
	1729	東京	豊島区	4.98
	1730	東京	中央区	4.76
1731	東京	新宿区	4.74	
1732	東京	渋谷区	4.74	
1733	東京	青ヶ島村	3.39	

順位	全体順位	(県)	市区名	高齢夫婦世帯比率(%)	
上位	1	33	石川	珠洲市	22.59
	2	67	奈良	宇陀市	21.21
	3	79	大分	津久見市	20.93
	4	82	北海道	芦別市	20.89
	5	97	山梨	北杜市	20.57
	6	99	香川	東かがわ市	20.55
	7	103	大分	竹田市	20.48
	8	105	高知	室戸市	20.45
	9	126	愛媛	西予市	20.09
	10	127	北海道	士別市	20.08
	11	132	宮崎	串間市	20.00
	12	135	鹿児島	曾於市	19.95
	13	137	大阪	河内長野市	19.95
	14	139	三重	尾鷲市	19.92
	15	140	北海道	歌志内市	19.90
	16	142	広島	江田島市	19.90
	17	146	千葉	南房総市	19.87
	18	147	石川	輪島市	19.87
	19	148	広島	竹原市	19.87
	20	151	宮崎	えびの市	19.85
・					
・					
下位	796	1704	東京	北区	7.30
	797	1706	東京	板橋区	7.12
	798	1709	東京	荒川区	7.01
	799	1710	沖縄	沖縄市	6.94
	800	1711	東京	大田区	6.93
	801	1712	沖縄	宜野湾市	6.91
	802	1713	東京	墨田区	6.57
	803	1714	東京	杉並区	6.54
	804	1717	東京	目黒区	6.21
	805	1719	埼玉	戸田市	5.94
	806	1723	東京	品川区	5.79
	807	1724	東京	文京区	5.69
	808	1725	東京	台東区	5.60
	809	1726	東京	千代田区	5.42
	810	1727	東京	中野区	5.36
	811	1728	東京	港区	5.24
	812	1729	東京	豊島区	4.98
813	1730	東京	中央区	4.76	
814	1731	東京	新宿区	4.74	
815	1732	東京	渋谷区	4.74	

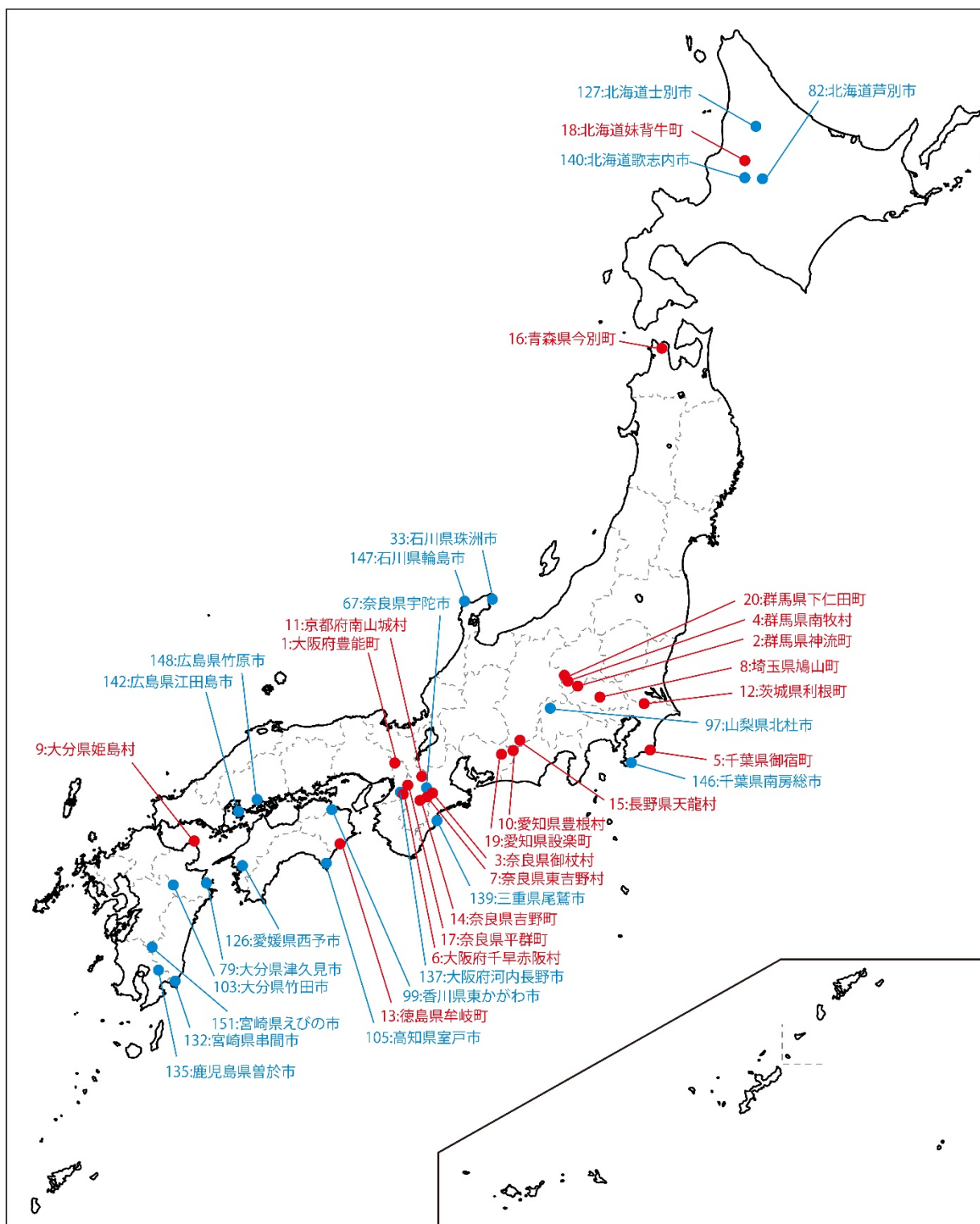
数値が上位の市町村の位置を次の図に示しますが、やはり大都市圏から離れた中山間等の町村が目立ちます。都道府県別で最上位だった奈良県では、山間の多くの町村が上位に位置していることがわかります。

逆に、高齢夫婦世帯比率が最も低いのは東京都青ヶ島村で、東京特別区や沖縄県内の村もその値の低さが目立ちます。青ヶ島村は人口の高齢化率も低く、表中の沖縄県内の村とともに、高齢者自体の割合の少なさと、多世代家族が比較的残されていることの現れなのかもしれません。

## 「高齢夫婦世帯比率」上位の市区町村マップ（令和2年国勢調査）

※全市区町村の1～20位を赤で表示しています（数値は順位）。

※「市及び東京特別区」に絞った上位20位までのうち上記全国上位20に含まれるもの以外を青で表示しています（数値は全国順位）。



ここで、東京や大阪という大都市近傍でも、高齢夫婦世帯比率が上位の市町が見られることが注目されます。大阪府豊能町が1位であることのほか、大阪府千早赤坂村や茨城県利根町などがそれにあ

たります。

大阪府豊能町は、大阪府の最北部、兵庫県と京都府に挟まれた位置にあり、北摂山系内で標高が比較的高いところです。昭和の大合併でほぼ今の町域となりましたが、中央の妙見山塊を挟んで東西の谷筋に分かれ、その相互の行き来は一端町外に出ないとできないという、非常に特徴的な構造を持ちます。西部には鉄道も通じ、住宅団地もありベッドタウンの様相も強いのですが、東部は純粋な山村の様相というコントラストを示しますが、山間地での若者流出と、住宅団地での高齢化（オールドタウン化？）の両面が現出しているということでしょう。

茨城県利根町は、県南部で利根川を挟んで千葉県と接し、いくつかの住宅団地も持ちますが、鉄道の利用が不便なこと等から若い世代の定着が進まず、結果として県内でも突出した高齢化率、高齢夫婦世帯比率となっており、これも特異な例のひとつと言えます。

### ☞人口の高齢化と相関するが、高齢夫婦世帯比率は一定の幅を持つ

以上のように、高齢夫婦世帯比率は、人口の高齢化の程度と強く関係しますが、改めてその関係を、人口の高齢化率との相関によってみてみましょう。

相関図（下）を作成すると、かなり強い相関（相関係数 0.82）を持ちますが、必ずしも直線状に並ぶわけではなく、同じ程度の高齢化率でも、高齢夫婦世帯比率は一定の幅を持っています。各市区町村が置かれた環境条件が多様であり、世帯構成にもそれぞれの事情が反映されているということでしょう。

高齢者だけの世帯には、保健・医療・福祉等の面での手当が必要ですが、そのあり方には各地域の環境条件等に合わせてそれぞれの工夫が求められます。中山間地域の町村、大都市近傍で早期に開発された住宅団地等を持つ市町といった、大きく2つのタイプに分けられそうですが、各々の特性に応じた政策展開が期待されるところです。

人口の高齢化率と高齢夫婦世帯比率の関係（市区町村）（令和2年国勢調査）

